

超低VOC多機能健康配慮形水性塗料

# アレスエコクリーン®

## シリーズ

/// グロス (艶有)

/// 5F (5分艶)

/// 3F (3分艶)

/// マット (艶消)

# 環境問題への対策は万全ですか？

シックハウス症候群に代表される室内空気汚染問題が深刻化し、厚生労働省の室内空気中化学物質の濃度指針値設定にもとづいて、文部科学省「学校環境衛生の基準」の改訂(平成14年)、建築基準法改正(平成15年)等、ホルムアルデヒドや揮発性有機化合物(VOC)の放散規制が本格化しています。室内における環境対策塗装仕様はもはや必須条件で、アレスエコクリーンシリーズは、この流れに対応した多機能健康配慮形水性塗料です。

## 主な用途

学校・保育園、オフィス、病院・医療施設、高齢者介護福祉施設、一般住宅、食品工場等。各種建築物の内壁面、天井面の仕上げ

## 適用素材

コンクリート、モルタル、各種ボード、各種旧塗膜

## アレスエコクリーンシリーズの製品構成

製品名	一般名称	規格	光沢	容量	色域
アレスエコクリーン	グロス	JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイント	艶有	15kg・4kg	白 淡彩色 ～ 濃彩色
	5F	つや有合成樹脂エマルジョンペイント(5分艶)	5分艶		
	3F	つや有合成樹脂エマルジョンペイント(3分艶)	3分艶		
	マット	JIS K 5663 1種 合成樹脂エマルジョンペイント及びシーラー	艶消		

### ● 適用下塗り塗料 ●

適用下塗り塗料	商品名	規格	光沢	容量	色域
	EPシーラー	JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンシーラー	-	15kg	白・透明
	アレス水性ケイカルシーラー	けい酸カルシウム板用 特殊合成樹脂エマルジョンシーラー	-	15kg	透明
	アクアグランドコートⅡ	木部用水性下塗り塗料	-	16kg	白

## アレスエコクリーンシリーズの特長・機能一覧

項目	アレスエコクリーン			
	グロス	5F	3F	マット
ホルムアルデヒド放散等級	F☆☆☆☆			
超低VOC (TVOC量)	0.3%以下			
非トルエン・キシレン塗料 <sup>*1</sup>	○	○	○	○
鉛・クロムフリー	○	○	○	○
超低臭	○	○	○	○
防火認定	○	○	○	○
防カビ性	○	○	○	○
抗菌性	○	○	○	○
汚れ除去性	○	○	○	○
室内空気清浄性	—	○	○	○
消臭効果	—	○	○	○
透湿性	—	—	—	○
塩ビクロス面 塗装適性	—			○
ヤニ止め機能	— <sup>注2</sup>			○
水性反応硬化形	○	○	○	○

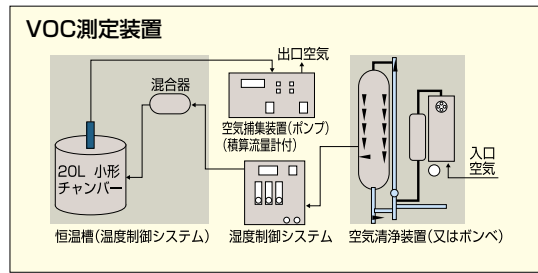
注1) (一社)日本塗料工業会 室内環境対策のVOC自主表示ガイドライン～「非トルエン・キシレン塗料」～に適合します。

注2) 「ストップシーラー」を下塗することにより、ヤニ止め機能を発揮させることができます。

# アレスエコクリーンシリーズの特長・機能

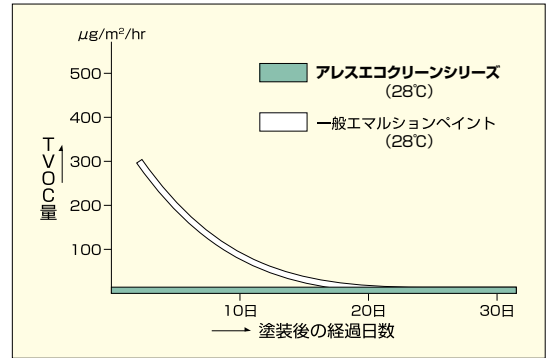
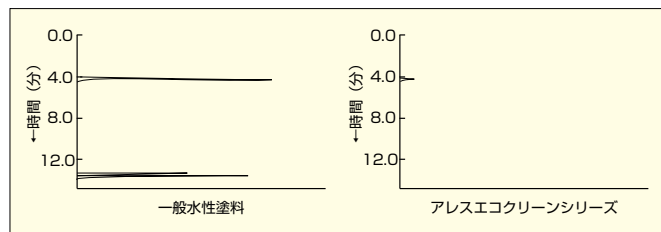
## 超低VOC

### 揮発性有機化合物(VOC)放散量測定



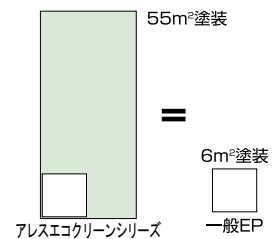
JIS A 1901 建築材料の揮発性有機化合物(VOC)、ホルムアルデヒド及び他のカルボニル化合物放散測定方法 — 小形チャンパー法

### ガスクロマトグラフによる有機溶剤分析結果



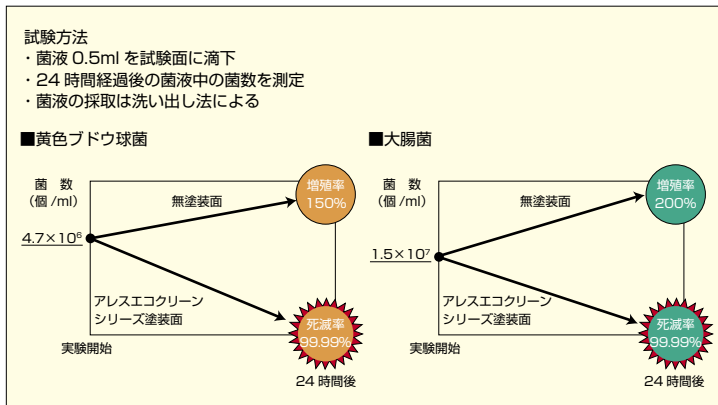
## 超低臭

アレスエコクリーンシリーズを55m<sup>2</sup>塗装したとき発生するニオイの強さと、一般水性塗料6m<sup>2</sup>塗装したときのニオイの強さがほぼ等しいといえます。



## 抗菌性(黄色ブドウ球菌、大腸菌ほか)

### 菌滴下法試験結果



## 汚れ除去性(優れたクリーニング性)

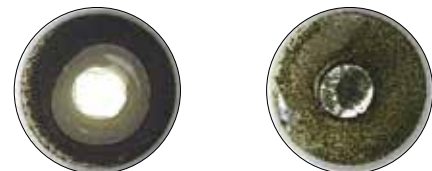
緻密な塗膜を形成するため、手垢、落書き等の汚れ拭き取り適性に優れています。

### 洗浄例

一般汚れ → 水又は中性洗剤で拭き取る  
筆記用具汚れ → 水に浸した研磨剤入スポンジなどで削り取るか塗料用シンナーで拭き取る

## 防カビ性

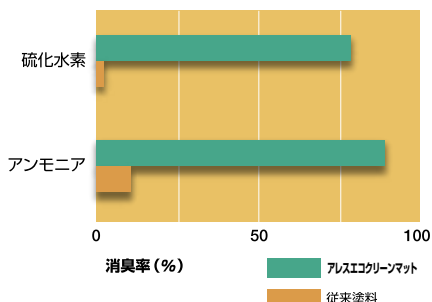
### かび抵抗性試験(JIS Z 2911)



特殊吸着顔料や光触媒効果などにより、アンモニアなどの悪臭・有害物質を吸着・分解し、快適な室内空間を保ちます。

### 消臭効果 5F・3F・マット

(アンモニア(尿臭)、硫化水素(排便臭)ほか)



●環境・試験条件  
臭い汚染濃度 硫化水素 10ppm  
アンモニア 50ppm  
容積あたりの塗装面積 100cm<sup>2</sup>/L  
試験時間 3時間

## ヤニ止め機能

### マット

下の見本程度迄のヤニ面に対して効果が期待できます。さらに厳しいヤニ面には「ストップシーラー」を併用してください。



## 透湿性

### マット

700g/m<sup>2</sup>・day  
(透湿カップ温冷法)

# 標準塗装仕様

F★★★★  
ホルムアルデヒド放散等級

超低VOC  
超低臭

非トルエン・キシレン塗料\*

鉛・クロムフリー

易汚染除去

防カビ  
ヤニ止 (マットのみ)

抗菌  
消臭 (5F・3F・マット)

つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G): アレスエコクリーングロス仕上げ JIS K 5660  
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (5分・3分艶): アレスエコクリーン5F・3F仕上げ  
合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP): アレスエコクリーンマット仕上げ JIS K 5663 1種

※(一社)日本塗料工業会室内環境対策のVOC自主表示ガイドライン「非トルエン・キシレン塗料」~に適合

## ■ 石膏ボード、モルタル、コンクリート面

工程	塗料名	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法	
素地ごしらえ	ゴミ、汚れなどを除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗	EPシーラー 透明	1	0.07 ~ 0.10	2時間以上 7日以内	上水 0 ~ 50	ハケ ローラー	
上塗	アレスエコクリーン	2	0.13	2時間以上 7日以内	上水	5 ~ 10	
						5 ~ 10	
						5 ~ 15	ハケ ローラー

注1) 下塗に「アレスシックイシーラーネオ」を用いることにより超低VOC仕様となります。

注2) 塗り替えて旧塗膜がしっかりしている場合は下塗を省略可能です。

## ■ 木部面

工程	塗料名	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法	
素地ごしらえ	ゴミ、汚れなどを除去し、研磨紙すりを行う。						
下塗	アクアグランドコートII	1	0.12 ~ 0.18	2時間以上 7日以内	上水 5 ~ 10	ハケ ローラー	
上塗	アレスエコクリーン	2	0.13	2時間以上 7日以内	上水	5 ~ 10	
						5 ~ 10	
						5 ~ 15	ハケ ローラー

## ■ ケイカル板面

工程	塗料名	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法	
素地ごしらえ	ゴミ、汚れなどを除去し、乾燥した清浄な面とする。(PH10以下、含水率8%以下)						
下塗	アレス水性ケイカルシーラー	1	0.13 ~ 0.17	2時間以上 7日以内	無希釈	ハケ ローラー	
上塗	アレスエコクリーン	2	0.13	2時間以上 7日以内	上水	5 ~ 10	
						5 ~ 10	
						5 ~ 15	ハケ ローラー

## ■ 塩ビクロス面(つや消仕上)

工程	塗料名	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
素地ごしらえ	ゴミ、スズなどを濡れた雑巾で拭き取り乾燥した清浄な面とする。					
上塗	アレスエコクリーンマット	2	0.13	2時間以上 7日以内	上水 5 ~ 15	ハケ ローラー

塩ビクロス面のヤニ汚れが著しい場合は、ストップシーラーを前もって塗装してください。

注1) 標準所要量は被塗物の形状や素地の状態により増減することがあります。

注2) カビ発生面に塗装する場合は、アルコール系除菌剤による除菌処理を実施してから塗装してください。

## ■ 施工上の注意事項

- 1) 開缶後よくかき混ぜて、中味を均一にしてから使用してください。
- 2) 性能を発揮する塗膜を形成するのに必要な最低塗膜温度がありますので5℃以下での使用は避けてください。また塗装時の換気は十分に行ってください。
- 3) 素地のアルカリ度はpH1.0以下、表面含水率は1.0%以下(ケツ科科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科科学社製H-1-5.0.0シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。
- 4) 夜間などは気温の低下によって結露し、塗面にシミがついたり、塗膜をタレさせたりすることがあるので、冬季や雨天の塗膜には特に注意してください。
- 5) 高温(40℃以上)および低温(-5℃以下)での保存は避けてください。
- 6) 濃彩色仕上げの際、雑巾・ウエス等で強くこすると、色落ちや艶変化が起こる場合があります。
- 7) シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着・フレの原因となります。やむをえず塗装する場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」をインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。

- 8) 傷、汚れなどの補修塗り、タッチアップの際は、同一ロットの塗料をご使用ください。
- 9) 結露や漏水が著しい場所への塗装は避けて下さい。
- 10) 多量のカビ発生する場所では、完全にカビを抑えきれない場合がありますので、ご注意ください。
- 11) 塗膜と、合成皮革、ゴムパッキン、塩ビフィルムなどとの接触は避けて下さい。可塑剤のブリードによる粘着が起こる場合があります。同様にそれらへの直接の塗装も避けて下さい。
- 12) ドアや手摺など人の手が頻りに触れる所では、手垢汚染、皮脂、クリーナー、整髪料等の影響で塗膜が軟化し、これが繰り返されると剥がれを起こすことがあります。このような部位には溶剤系2液ウレタン塗料をお勧めします。
- 13) 塗装前の部材にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装して下さい。
- 14) 使用した塗料は、元の塗料容器に戻さないでください。
- 15) 天井や開放廊下など旧塗膜が凹凸のあるリシン・スタッコ等の場合には塗装しないでください。厚くなった部分で割れが発生する可能性がありますので、アレスノキテンコートや適正上塗り塗料をご使用ください。

## ■ ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。
- 詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 予防策**
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・入り巻きタオル・長袖の作業着・手袋を着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振り回し、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 対応**
- 目に入った場合: 直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合: 直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

- 吸入した場合: 空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取る。
- 火災時は、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 保管**
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 廃棄**
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所に廃棄しないこと。)
- 施工後の安全**
- 本品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社  関西ペイントホームページ [www.kansai.co.jp](http://www.kansai.co.jp)

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757 東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935 中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285  
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073 中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981 四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950  
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223 大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603 九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご承知ください。

(23年04月28日PPO) カタログNo.545